

日本経済新聞に野田君の生きざまが取り上げられました

細かな間違いがあるので下に訂正を依頼されました

*この記事は日経の新聞記者が計8回野田君に取材をして書いたものです 事前チェックは断られました

1996年(平成8年)1月30日(火曜日)

(平成8年)1月29日(月曜日)

12版(社会)(30)

サラリーマン 第421話

「素人にはわからないのだ。栄町に選挙区改定されることになるとの利点があるが、どんなよりなっている複合町民施設がつとした朝の通勤電車の空気を一変させた。乗客の視線がひと、町村では県下最大級の文化ホールが、人口一万六千人の薄体関連会社に勤務するから町に必要なのだろうか。中身わら、千葉真栄町のニュータウンで自治会長を務めていた野田泰博さん(48)は、体がていた。

かつと熱くなった。そんな中に、経営する東京の会社に向かうため、いつも乗る合宿バスを降り、町議の選挙区に乗り込んでいた。眠り込めた。話が合い、文化ホール計画人や新聞に見入る人も多きが、野田さんはボックスシートで顔見知り話しながら長い時間を過ごすのが楽しかった。九一年秋、その朝の話題は、一人の反対者もいなかった。

サラリーマン 第421話

町議選への立候補を決めた野田泰博さん(48)が、地域の問題に目を向けるようになったのは、千葉真栄町に移り住んでからだ。それまでは典型的な会社人間だった。学生時代、学園闘争に明け暮れる大学に就職がさして下

イッ・ハンブルクの大学に留学、経営学を学んだ。復学後には大阪府のドイツ館やミュンヘン五輪で通訳も務めた。ドイツ語の能力を買って、初めはまったく興味を示さなかった。泥臭い仕事が多足運んで、契約を取り付けた。モノを作って売るメ

我が町議員日誌



選挙に出ようと決めた

「素人の視点町政に」
 たのだ。翌朝、思わぬ電車内での遭遇があった。野田さんに、その町議がぶつた言葉が「素人」だ。町議選は「無投票」の無風な。議会の内と外とで、どうして立場が違ってしまったのか。このことを伝える議員が必要だ。自治会の仲間も同じだ。政治に、「素人」の目が届く。それなら自分が選挙に出るべきだ。野田さんは、選挙に出ようと思った。

我が町議員日誌

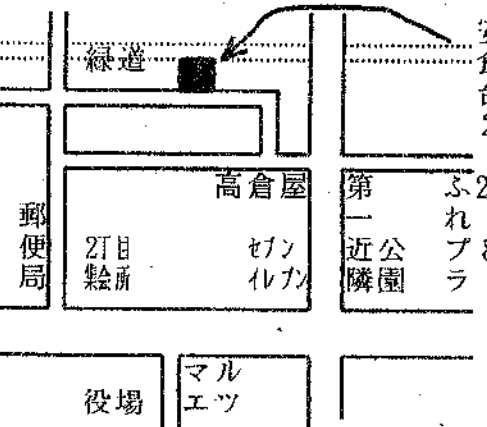


働くことが快感だった

「残業...家庭顧みず」
 時間がたつのも忘れた。大分の自動車工場に勤務を売ら込む仕事にあたり、松葉つえをついた。工場へ向かった。そんな熱い。二週間は安静に」という医者。他人の三倍は働いて、業者の忠告を振り切って飛行機に乗った。家族はその分、顧みなかったかもしれない。一会社だから仕方ない。休日出勤を定める。家族への言い訳がいつの間にか、利根川、印旛沼... 周囲には豊かな自然が残っている。駐在員時代、アルプスでキャンプをした記憶がよみがえった。

訂正① 成田線で我孫子止りの列車は当時ボックス席でした。上野までの快速ではありません。
 訂正② 一期目の町議

栄町見聞録後援会事務所地図



申し込み方法
 栄町見聞録後援会に入会される方は表面の申し込み用紙を後援会事務所までご持参下さるか、電話またはFAXにてご連絡下さい。
 持参は FAX 95・93665
 栄町見聞録後援会事務所まで留守の場合 郵便受けに投函
 年会費 1000円

栄町見聞録後援会(要約)
 目的 栄町見聞録を良く読み話しを聞き、皆で話し合い、会員の相互の親睦を図る。
 事業 町政を研究し、講演会を開催し機関誌を発行する。
 運営 幹事を置き、会費と寄付で運営する。
 本部 安食台2丁目20-18に置く。

